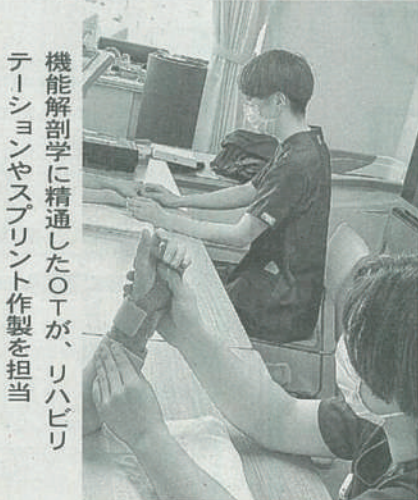


手外科センター開設

専門性高い治療・リハを提供

札幌市西区の札幌孝仁会記念病院（齋藤孝次理事長、入江伸介院長・276床）は、整形外科（名越智副院長）内に手外科センターを開設した。日本手外科学会指導医・専門医で、豊富な手術実績を持つ阿久津祐子センター長と佐々木浩一主任医長の2人体制で、手外科疾患に積極的に対応していくほか、ハンドセラピストの育成にも力を入れていく。

同病院の昨年の年間整形 持ち、解剖的構造が複雑
形外科手術件数は約66 なことから、手外科疾患
0件。そのうち、上肢手 の治療には高い専門性が
術は250例と全体の約 求められる。全国でも外
4割を占めている。手 科専門医は110人と
は、緻密で鋭敏な感覚を 多くはない。



機能解剖学に精通したOTが、リハビリテーションやスプリント作製を担当

「需要が多い領域にも 格差は、どの地域でもあ
かかわらず、手外科専門 り、札幌市内の整形外科
医は少ない。手外科医療 でも手外科の治療とリハ

2018年から入職。入 船秀仁先生（現・手稲深
仁会病院）とともに骨折
神経損傷、腱損傷などの
外傷治療、手根管症候群
などの変性疾患の治療実
績を重ね、19年に同施設
は手外科認定研修基幹施
設に認定。24年に佐々木
主任医長入職に伴い、専
門性が高い治療の提供と
教育の充実を目指し、手
外科センターを開設し
た。

なりハビリテーションを 術に立ち会わせ治療につ
要するため、OT、PT いて活発なディスカッシ
からなるハンドセラピス ャンを行っている。
トの教育にも積極的に取 り組んでいる。日本医療
大作業療法学専攻の清本 憲太教授を招いて定期的
に講義や指導を仰いでい るほか、患者同意のもと、
セラピストを積極的に行 える病院は少ない」と
阿久津センター長は現状 を語る。

阿久津センター長は、 2018年から入職。入
船秀仁先生（現・手稲深
仁会病院）とともに骨折
神経損傷、腱損傷などの
外傷治療、手根管症候群
などの変性疾患の治療実
績を重ね、19年に同施設
は手外科認定研修基幹施
設に認定。24年に佐々木
主任医長入職に伴い、専
門性が高い治療の提供と
教育の充実を目指し、手
外科センターを開設し
た。

「手は生活の上では欠 かせない部位。手外科疾
患は生活に直結する。高 齢となり車椅子となつて
も手を最後まで使う。Q OIを維持するため、よ
り専門性の高い医療を患
者に提供していけたら」 と力を込める。

阿久津センター長、 佐々木主任医長は、石井
清一名誉教授が主宰する 札幌大整形外科講座に入
局。和田卓郎済生会小樽 病院院長、射場浩介札幌
大運動器抗加齢学講座特 任教授から指導を受け
た。阿久津センター長は、
聖隷浜松病院手外科マイ
クロサージャリーセンタ
ーでクリニカルフェロー
として外傷、変性疾患を
学んだ。佐々木主任医長
は、和田先生より学んだ
テニス肘や変形性肘関節
症の関節鏡下手術を得意
としている。

2024年(令和6年)8月5日(月)

北海道医療新聞 2面